

音楽学部・人文学部教員年次研究報告書

(2002年4月～2002年12月)

本学教員の教育研究活動の一部分を学内外に報告することを目的として、例年どおり「研究論集」に「教員年次報告」を掲載いたしております。大学の自己点検・自己評価に役立てることができれば幸いです。(掲載はアイウエオ順)

【音楽学部】

小 栗 まち絵

1. 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト III モーツァルト；歌劇「ドン・ジョバンニ」2002年5月12日神奈川県民ホール、5月15/17日東京文化会館、5月20日愛知県芸術劇場大ホール、5月23日フェスティバルホール、オーケストラコーチとして参加。
2. いずみシンフォニエッタ大阪 第4回定期演奏会 2002年7月12日いずみホール イベール；室内管弦楽のためのディヴェルティメント、池辺晋一郎；「ストラータ V」、細川俊夫；相聞歌他コンサートミストレスとして出演。
3. 「ベートーヴェン ピアノとヴァイオリンのためのソナタ全曲チクルス第1回」2002年10月10日神戸新聞松方ホール 第1番ニ長調、第4番イ短調、第5番ヘ長調「春」、第8番ト長調（ピアノ 児嶋一江）

斎 藤 達 男

1. 「斎藤建寛リサイタルシリーズ Vol. 4」2002年5月27日 バッハ：無伴奏チェロ組曲第4番、ドビッツシー：チェロ・ソナタ、プーランク：チェロ・ソナタ他 会場：ザ・フェニックスホール
2. 「トリオ オーバー」ピアノトリオコンサート 2002年10月15日 ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲第7番「大公」、トゥリーナ：ピアノ三重奏曲第1番、ショスタコーヴィチ：ピアノ三重奏曲第2番 会場：ザ・フェニックスホール
3. 「斎藤建寛リサイタルシリーズ Vol. 5」2002年12月10日 バッハ：無伴奏チェロ組曲第5番、ヒンデミット：無伴奏チェロ・ソナタ、グリーグ：チェロ・ソナタ他 会場：ザ・フェニックスホール

*主な活動：2000年12月より2003年6月まで、チェロ音楽の古典から現代までの作品全31曲を6回の連続リサイタルで演奏（研究発表）している。プログラムには毎回バッハの無伴奏チェロ組曲全6曲を1曲ずつ織り込み、半年の1度のペースで開催するリサイタルシリーズの形をとっている。

柴田 翠

1. 「Reinschöne」（ラインシエーネ）を主催「ピアノデュオの愉しみ」ドビッシー・モーツァルト・バッハ 2002年6月23日 秋篠音楽堂
 2. イタリア歌曲と日本歌曲コンサートのピアノ 2002年10月12日 奈良国立博物館
 3. 2002年10月14日 いしはらホール ピアノソロ ラベル
- *現在の研究課題：ピアノ・デュオコンサートを計画 モーツァルト・バッハ・シューベルト・リスト曲

高橋 滋子

1. Spring Spring Spring——7本のフルートのための——の楽譜出版。2002年5月 発行所 Dolce Music Productions
2. 第35回「新しい日本の歌」発表演奏会において、新作歌曲「落葉松の」を発表。2002年9月24日 朝日生命ホール（東京）
3. 2002年新・波の会定期演奏会において、新作歌曲「小さな命」を発表。2002年11年12日 朝日生命ホール（東京）

田辺 良子

1. 田辺良子ヴァイオリンリサイタル 2002年5月1日 イシハラホール タルティーニ「悪魔のトリル」、ラヴェル ソナタ他（ピアノ 小坂圭太）
2. アフロディテ弦楽四重奏団演奏会 2002年7月20日 西川室内楽サロン ベートーヴェン弦楽四重奏曲 op. 18-5 イ長調、ラヴェル弦楽四重奏曲へ長調 他
3. 大阪シンフォニカー交響楽団特別演奏会 2002年12月26日 ザ・シンフォニーホール モーツァルト協奏曲5番 イ長調 K. 219をソリストとして協演

三 谷 美智子

1. 2002年6月1日、2002年11月9日、2003年2月22日 大阪市民学習センター シリーズ 親子のレクチャーコンサート 担当；企画と演奏 共演
ピアノ 石田まり・村谷美佳・藤澤久美子他
2. 2003年1月11日 城北センターホール ソルフェージュのレクチャーコンサート 担当；企画と演奏 共演 ピアノ 石田まり

山 田 健 司

1. 2002年1月12日 プレラホール 第1回 プレラ名曲サロン——オペラ
アリア歌曲の楽しみ——オペラ「コシ・ファン・トゥッテ」抜粋 ドン・アル
フォンゾ役 オペラ「カルメン」より 闘牛士の歌（エスカミーリョ）
主催：西宮市、西宮市文化振興財団
2. 2002年1月27日 アルカイトックホール オペラ「ドン・ジョヴァンニ」
レポレロ役 指揮：阪哲朗、演出：岩田達宗、オーケストラ：関西フィルハ
ーモニー 主催：ニューオペラシアター神戸
3. 2002年5月26日 アルカイトックホール オペラ「コシ・ファン・トゥッ
テ」ドン・アルフォンゾ役 指揮：金聖響、演出：鈴木敬介、オーケスト
ラ：京都市交響楽団 主催：関西二期会

【人文学部】

新 井 俊 一

1. “No Need for Arms and Armed Forces’—Establishing Peace Studies in
the Light of Shinran’s Thought.” 2002年9月3、4日にスイスのローザ
ンヌで開かれた国際真宗学会ヨーロッパ支部大会での口頭発表。なおこの論
文は近い将来に発行される学術書 *The Pure Land (New Series)* に掲載さ
れる予定。
2. “The Meaning and Role of the Bodhisattva in Shinran’s Pure Land Tra-
dition.” 2002年9月4日ー7日にドイツのデュッセルドルフ・恵光日本文
化センターで開かれた「菩薩についてのシンポジウム」に参加、口頭発表し
た論文。なおこの論文は2003年度に同センターから発行される学術誌
Horin: Vergleichende Studien zur japanischen Kultur に掲載される予
定。

***主な活動状況：**

- a. 2002年8月25日から9月1日にかけて、浄土真宗本願寺派シアトル別院の招請により、同別院で英語と日本語で真宗セミナーを行った。また本学で歌われている「讃仏偈」「重誓偈」「いちいちの花」「念仏」「四弘誓願」「真宗宗歌」「敬礼文・三帰依」「み仏にいだかれて」などを紹介した。
- b. 本願寺新報社発行の月刊誌『大乘』に毎号、日英両語で英文随想“Echo of the Dharma”を執筆。本年度で4年目。

***現在の研究課題：真宗教学・平和学・宗教倫理学**

石川 玲子

1. 「子供から大人への旅立ち——ヴァージニア・ウルフの『船出』を中心に——」2002年10月5日 相愛大学市民教養講座

***現在の研究課題：a. ヴァージニア・ウルフの作品研究**

- b. ヴァージニア・ウルフとキャサリン・マンズフィールドの比較研究

David Blake Willis

Publications

1. David Blake Willis and Satoshi Yamamura, Co-Editors Japanese Education in Transition 2001: Radical Perspectives on Cultural and Political Transformation, WCCES Commission 6 Special Congress Issue Japanese Education in Transition, International Education Journal, Volume 3 Number 5 October 2002, <http://wwwed.sturt.flinders.edu.au/iej/ARTICLES/frame.HTM>
2. Citizenship Challenges for Japanese Education for the 21st Century: “Pure” or “Multicultural”? Multicultural Citizenship Education in Japan, in WCCES Commission 6 Special Congress Issue Japanese Education in Transition, International Education Journal, Volume 3 Number 5 October 2002, <http://wwwed.sturt.flinders.edu.au/iej/ARTICLES/frame.HTM>
3. Questioning the Failure of Japanese Higher Education, Book Review of Japanese Higher Education As Myth, by Brian J. McVeigh. Armonk, N. Y.: M. E. Sharpe, Inc., 2002, 320 pp., \$26.95, International Herald Tribune, September 18, 2002.

4. Creoles, Garifuna and Others in Belize: Cultural Transmission in a Multicultural Society, Soai Daigaku Kenkyu Ronshu (Annual Research Report Of Soai University), Vol. 18, March 2002

Presentations

1. Pacific Creoles in the Borderlands Between America and Asia, Presentation and Book Launching, Pacific Creolization: Searching for Emerging Shared Values in the Japan-U. S. Borderlands, Woodrow Wilson International Center for Scholars, December 4, 2002, Washington, D. C., USA, http://wwics.si.edu/index.cfm?topic_id=1462&fuseaction=topics.event_summary&event_id=13874
2. The International Education Week Program, Moderator, The U. S. Consulate General Osaka-Kobe, HAT Kobe, November 21, 2002
3. Japan and the Japanese, JICE Program for Indian Governmental Leaders, JICA Osaka Center, November 8, 2002
4. Understanding Japanese Society and Culture, JICA Business Leaders, Kobe International Community Center, September 6, 2002
5. David Blake Willis and Satoshi Yamamura, Program Chairs Japanese Education in Transition 2001: Radical Perspectives on Globalization, Diversity, and Educational Transformation Satoshi Yamamura and David Blake Willis, Co-Chairs, Comparative and International Education Society: CIES Annual Meeting 2002, Sheraton Hotel, Orlando, Florida, March 6, 2002
6. Multicultural or "Pure" Japan? Citizenship Challenges for Japanese Education for the 21st Century, Comparative and International Education Society: CIES Annual Meeting 2002, Sheraton Hotel, Orlando, Florida, March 6, 2002

北崎契縁

1. 「エコクリティシズムから見る D. H. ロレンス——“spirit of place” “sense of place” をキー・ワードに——」『相愛大学研究論集』第 18 巻 2002 年 3 月
- *現在の研究課題: D. H. ロレンス研究会(京都)において、ロレンスの初期二作品『白孔雀』および『越境者』の出版作業を行っている。それぞれの

作品の邦文文献に関わる書誌作成を完了し、『越境者』については「『越境者』に見られる不均衡——アンティ・マスクの意味」という題目で論文執筆完了。両書とも来春（2003年）出版（朝日出版社）の予定。

北野裕通

1. 「大地の人」（『宗教学会報』No. 12、大谷大学宗教学会）

- * 主な活動状況：
 - a. 「京都哲学会」（顧問・上田閑照京大名誉教授）を平成14年3、9、12月に開催
 - b. 『京都宗教哲学』（京大宗教哲学会）第20号の編集責任
 - c. 西田幾多郎記念哲学館（石川県）第22回「夏期哲学講座（8/25、26）」講師
 - d. 西田哲学会（仮称、代表・大橋良介）設立準備委員会メンバー

小松茂久

1. 『学校改革のゆくえ——教育行政と学校経営の現状・改革・課題——』昭和堂 2002年4月
2. 「教育経営学の再構築（1）課題研究報告・総括」日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要第44号学校と地域の関係の再構築』第一法規 2002年5月
3. **Transition in the Japanese Curriculum: How Is the Curriculum of Elementary and Secondary Schools in Japan Determined?, International Education Journal, Vol. 3, No. 5, 2002 Oct.**

- * 現在の研究課題：
 - a. アメリカの大都市教育政治史研究
 - b. 学校と教育行政の規模と教育効果の関連についての研究

佐々木 豊

1. 「ロックフェラー財団と太平洋問題調査会——冷戦初期の巨大財団と民間研究 団体の協力／緊張関係——」『アメリカ研究』第37号（2003年）
2. **Pacific Creolization: Searching for Emerging Shared Values in the Japan——U. S. Borderlands** (Symposium at the Woodrow Wilson International Center for Scholars, Washington, D. C. Dec. 04, 2002) 研究発表
3. 社会科学的知の普及における民間研究団体・財団の役割（アメリカを事例

として)

鈴木 徳 男

1. 『『俊頼髓脳』の本義』中古文学会関西西部会 口頭発表 神戸女学院大学
2002年6月
2. 「『同じく文殊』か『同聞衆』か——『俊頼髓脳』本文考——」『いづみ通信』
29 2002年7月
3. 『関西大学図書館蔵 俊秘抄』共編著 和泉書院 2002年10月
4. 『『俊頼髓脳』の歴史意識——「中頃の人」をめぐる——』『国文学論叢』
第48輯 2003年3月

* 主な研究課題：歌学書の注釈的研究

* 主な活動：a. 『佛教文学』（仏教文学会誌）編集委員

b. 和歌文学会委員

c. 俊頼髓脳研究会事務局

砂 川 博

1. 「『開山弥阿上行状』考」『時衆文化』第5号 2002年4月
2. 「踊り念仏論」『一遍聖絵の総合的研究』岩田書院 2002年5月
3. 「『医聖』としての一編」『一遍聖絵の総合的研究』岩田書院 2002年5月
4. 「一遍聖絵における聖戒の視点」『時衆文化』第6号 2002年10月5月
「絵はどこまで読めるか」『時衆文化』第6号 2002年10月
6. 「赤間神宮（阿弥陀寺）——安徳・平家鎮魂の風景——」『国文学解釈と教材
の研究』2002年10月
7. 編著『一遍聖絵の総合的研究』同上

* 主な研究課題：a. 一遍聖絵と時衆教団の研究

b. 平家物語の成立研究

* 主な活動：a. 研究誌『時衆文化』（年2回刊行）編集代表

b. 時衆文化研究会・一遍聖絵研究会代表

孫 久 富

1. 上代文学会シンポジウム「危機と再生の中を生きる古代文学」を発表。『上
代文学』第88号 2002年4月に掲載
2. 「古代詩論における志・心・靈感の比較——東洋と西洋の作詩原理を中心に
——」『相愛大学研究論集』第18巻 2002年3月

3. 京都国際高等研究所にて研究発表「恋愛文学における表現」2002年6月15日

* 主な活動：日中両国の文芸思想の比較

千葉 真也

1. 「仮名古事記」「万葉和歌集」「古事記」「古事記伝」「古事記雑考」「古事記伝首巻」「古事記伝上木雑事・伝板出来之覚」「古学」「注釈」「道」「旅行」「野井安定」「橋本稻彦」「宮地春樹」「山地介寿」ほか執筆（『本居宣長事典』東京堂出版 2001年12月）

2. 『古事記伝』——注釈学の成果（『国文学解釈と鑑賞』平成14年9月号）

* 現在の研究課題：a. 『古事記伝』の成立状況に関する実証的研究

b. 賀茂真淵と本居宣長の思想についての研究

* 主な活動：鈴屋学会常任委員

西口 順子

1. 『米原町史』通史編、第三章 中世 第三節—四（米原町役場、2002年3月）（共著）

* 現在の研究課題：a. 中世公家社会における「家」と尼・尼寺の研究

b. 中・近世滋賀県における絵系図の研究

* 主な活動：平成14年度科学研究費補助金基盤研究（B）（1）「尼寺文書調査を基盤とした日本の女性と仏教の総合研究」研究分担者として霊鑑寺・中宮寺文書調査を実施

橋元 淳一郎

1. 『力学ノート』講談社 2002年6月

2. 『相対性理論』サンマーク出版 2002年12月

* 主な研究課題：a. 科学制度の文明論的研究

b. 時間論と宇宙論

c. 大学における科学教育のあり方

橋本 雅之

1. 「『常陸国風土記』の漢語とそのヨミをめぐって」『相愛国文』15号 2002年3月

2. 「『常陸国風土記』における漢語表現の受容をめぐって」『古事記・日本書紀

論究』おうふう刊 2002年3月

3. 「図象でたどる大衆文化におけるサルタヒコのイメージ」『Bien』14号 藝術出版社 2002年6月

4. 「古風土記の世界観と編纂思想」『国語と国文学』79巻9号 2002年9月

- *主な研究課題：a. 古風土記の編纂に関する研究
- b. 上代散文文学の漢語表現に関する比較文学的研究
- c. 日本神話の認識論的研究

*主な活動

- a. 学術雑誌『風土記研究』の刊行（年1回）
- b. 古事記学会理事（全国大会担当）として学会全国大会の運営
- c. 万葉学会編集委員として全国大会の運営と学術雑誌『萬葉』の編集
- d. 猿田彦大神フォーラム世話人としてフォーラムの運営

三 好 幸 治

*主な活動：2003年度ジェサップ国際法模擬裁判大会（日本国際法学生協会主催）弁論裁判官担当

*主な研究課題：宇宙空間の軍事利用の新たな展開——ABM 制限条約失効後の国際法状況

山 下 昇

1. 研究発表：「アリス・ウォーカーの「アフリカ」：『喜びの秘密』を中心にして」2002年6月 黒人研究会全国大会

2. シンポジウム司会兼講師：「フォークナーと大恐慌（時代）」2002年10月 日本ウィリアム・フォークナー協会全国大会

山 本 和 明

1. 「略本系『俊頼髓脳』の研究（二）——関西大学蔵『俊秘抄』翻刻——」（共著）『相愛国文』第15号 2002年3月

2. 「勢州山人『諸国奇談北遊記』紹介」『相愛女子短期大学研究論集』49巻 2002年3月

3. 『関西大学図書館蔵 俊秘抄』（和泉書院）2002年10月

4. 『『小説神髓』の周縁』新古典文学大系明治編月報8（岩波書店）2002年10月

5. 「『古今集通話』について・統紹」『古代中世和歌文学の研究』（和泉書院）2003

年 2 月

山 本 幸 男

1. 『城陽市史』第 1 卷 原始古代編、第 3 章第 2 節、第 4 章第 1 節 1～3、第 2 節、第 3 節、第 5 章第 1 節を執筆。2002 年 3 月
2. 『写経所文書の基礎的研究』吉川弘文館 2002 年 2 月

* 主な研究課題：

- a. 写経所文書の復原的研究
- b. 奈良朝仏教教学史の研究

「天平十二年の『華嚴経』講説」（続日本紀研究会 50 周年記念論文集〈塙書房、2003 年 12 月刊〉に掲載予定）を執筆。

- c. 8 世紀の政治史研究

「藤原良継・百川」（『古代の人物』第 3 巻〈清文堂出版、2003 年 6 月刊〉に掲載予定）を執筆。

* 主な活動：正倉院文書研究会・幹事（継続）

続日本紀研究会・編集委員（継続）

大阪市立大学日本史学会・編集委員（2002 年 5 月～）